

## トノサマガエル

澄川森林で林内製材を運搬していた田山さんが「大きなカエルがいた」と教えてくれました。???。北海道のカエルの種類は少ないことはエゾアカガエルの一文で紹介しましたが、エゾアカより大きいカエルはトノサマガエルしか思いあたりません。まさかこんな澄川の森の中で?ひょっとしてガマか?、だったら新発見だ。という思いで、現地に案内してもらいました。場所は先般ヒメネズミに出会ったあたりでした。



いました、いました。右上の写真をご覧ください。れっきとしたトノサマガエルでした。カエルたちはしばしば周囲の環境によって保護色になります。このカエルも濡れ落葉に紛れる装いをしていますが、形は紛れもないトノサマガエルです。

トノサマガエルは元々は北海道にはいなかったと言われています。この春に恵庭のエコリン村の池で出会いましたが、北海道での最初の発見の報告が1993年だそうですからそんなに昔ではありません。なんでも教材として持込まれたらいいとwikipediaの情報です。それから20年ばかりで澄川の森にまで進出しているのですから凄いことです。九州育ちの筆者にとっては極々なじみ深いのです。カラスを育てる時には十数匹を掴まえてきて餌として茹でて食べさせたりしました。ちよいと田んぼに降りれば幾らでも掴まされたのです。カブトムシ同様に外来生物だから駆除しろ、との動きがありますが、生物は元々環境の変化によって分布域を変えるのは当たり前のことから、目くじらをたてて、殺戮するのはいかながなものかと思うのであります。よくぞ澄川までおいでくださいました。と尊敬してしまいます。2003年8月20日、13時頃と記録しておきます。

それにしても澄川までどのような経路で進出してきたのか、沢のすぐ下流は札幌市街地です。川下経路は不可能です。川上の森林伝いもまず不可能です。ならば空を飛んできたとしか考えられません。鳥に運ばれたのでしょうか。

推理1 澄川の水辺でこれまでに確認された水鳥ではアオサギ、マガモ、ヤマセミの3種です。これらのどれかが産卵間もないトノサマガエルの卵を食べたとしましょう。鳥の消化管は短くできています。体調を崩して消化不良をおこしたとしたら、食べたばかりのカエルの卵が生きてそのまま排泄されることだってあると思います。

推理2 マガモの脚の水掻きに卵あるいはオタマジャクシがくっついて、羽毛との間に挟まれたまま飛翔し、澄川の沢に着水したときに、沢水に放たれた。

多分北海道に上陸したのも推理2のような状況だったと思うのです。さすれば自然現象としての分布域の拡大です。外来などとめくじらたててはいけないのです。

朝鮮半島とそれに続く中国の一部およびロシアの沿海州にも分布しているので北海道にも適応すると思われます。澄川のは保護したいですね。